取組の概要

本学が 4 年間進めてきた初年次を中心とした教育プログラムを基礎とし、その上に新たな改革の取り組みとして、学びの気づき・習得・実践を支援する長期学外学修プログラムを設定する。このプログラムは、（１）学びの気づきを目的とした OJT 型長期学外学修：「(国内外）地域課題探索インターン」と、（２）学びの修得としてグローバルな視野を得る「海外交換留学」、「有給海外インターン」、（３）学びの実践として、PBL 型長期学外学修：「社会実践サービスラーニング」と「プロジェクト研究実践」から構成する。これらを正課教育と準正課教育の中に設定し、福岡女子大基礎力(5 つの能力・13 の力)獲得過程の中に位置付ける。このプログラムを支えるクオーター制の導入と、全学的取り組む組織として教育学習支援センター（体験的学習専門部会）を中心に、国際化推進センター、キャリア支援センターおよび地域連携センターからなる体制を確立する。

補助事業の目的・必要性

本補助事業の全体の目的は、本学で、新学部発足とともに制度が整えられた「短期」学外学修プログラムを継続・充実させる一方で、長期学外学修プログラムを新設し、それを現在本学が提供する諸プログラムと有機的に結びつけ、学生の主体的学びの実現を目指すことである。

高等教育修了学生の実態と社会が求める能力にかい離、特にリーダーシップ、コミュニケーション能力の不足が多くの調査で報告されている。これは社会における実体験の少なさや自ら考え抜く場面に遭遇する機会が少ないことが要因の一つに考えられる。これに応えるため、体験学習科目を初年次から導入、担当教員・科目数の増加を図ってきたが、履修学生数は地域・海外プログラムとも横ばいである（履修者数－国内 H23/14 名, H24/14 名, H25/18 名, H26/15 名、海外－H23/23 名, H24/4 名, H25/33 名, H26/32 名）。体験学習説明会を過去の履修学生が中心に企画するなどの工夫もあり、履修を希望する学生は多いが、セメスター期間中の授業との兼ね合いで悩む学生が多い。特に 1 年次は集中的な学術英語プログラム受講、ファーストイヤー・ゼミや文理統合型の学びの入門講座など履修科目数が多い上に、全寮制の環境を活かした多様な寮内活動に参加するため、充実した初年次教育の成果は出ているが、大学での学びと社会課題解決とのつながりを体験する機会は十分であるとは言えない。そこで、2 年次に長期学外学修プログラムを導入し、体験を通じて社会課題を認識し学生各自が大学での学びの意義を見出す「学びの気づき」のステップとする。ここにクオーター制を活用して一定期間キャンパスを離れてインターン先（大学近隣地域の社会課題解決に取り組む NPO やまちづくり機関、自治体の政策の執行機関など）で社会体験を積む OJT 型の「国内外の地域課題探索インターン」を設ける。またこの事前学修の一つとして、1 年生対象に「地域共創科目」を設け、自治体や NPO 中間支援法人などから講師を招き、地域課題について理解を深める。事後学修として、プログレスファイルを通じた振り返りやアカデミックアドバイザーとの面談などを行い、社会での気づきを 2 年次後期や 3 年次での学び方につなげる。「学びの習得」のステップでは、グローバルな視野を得るために、海外交換留学や有給海外インターンなどの学外学修の機会を選択できるようにプログラムを増やす。さらに、「学びの実践」のステップにおいては、学内の授業科目と PBL 型の長期学外学修を有機的につなげ、専門分野の学びを社会の中でどのように活かすかの実体験を積む「社会実践サービスラーニング」や「プロジェクト研究実践」を選択できるようにする。これは、行政・NPO や国内外企業の中で、産学官共同研究プロジェクトなどの企画・推進および問題解決提案活動などを通して「社会と研究の実践を学ぶプログラム」として構成する。これらを支えるクオーター制は、コースナンバリングも含め、かねてから検討してきた課題であるので、平成 29 年度から導入する。